

校長室から

東京都立武蔵野北高等学校
校長 鶴飼敦之

「武蔵野北に夢をのせて」

『2学期 終業式に寄せて』

2学期の終業にあたり、終業式での内容をお伝えします。

さて、今日は最近私が読んだ本について、紹介しようと思います。

いつも図書館では、新着図書のコナーで面白そうな書籍を物色していますが、今回、目にとまったのは、『アウシュビッツ生還者からあなたへ』という書名でした。岩波のブックレットで、短時間で読めそう、通勤にはもってこい。また、私は日本史を担当していますので、歴史に関する題材に自然と目がいったのです。



この本は、ユダヤ系イタリア人として迫害を受け、13歳でアウシュビッツ強制収容所に送られ、収容所での壮絶な日々と数百キロにおよぶ「死の行進」を奇跡的に生き延びた経験をもつリリアナ・セグレさんの講演記録です。彼女は戦後の長い沈黙後、30年間に近い「語り部」として証言活動を続け、90歳の節目の年、2020年10月に「最後の証言」を実施されました。最終講演はイタリア全土に生中継され、同世代から

若者まで多くの方が耳を傾けたそうです。その証言を日本語に翻訳したものです。

彼女の講演は「もう十分にやった、休みたい、もう思い出すのは辛い、これ以上は苦しみたくない、もうこれ以上は…」という言葉から始まります。

- ・ 8歳で、ある日突然「のけ者」として、学校を追い出されたこと
- ・ イタリアからスイスへの亡命の試みで裏切りにあったこと
- ・ 13歳で、家畜用貨車に押しこまれ収容所に移送されたこと
- ・ 移送直後に父親と離され、父がガス室に送られたこと
- ・ その後も一瞬の選別で生死が決定されたこと
- ・ 腕に番号の入れ墨をされ、服を脱がされ、髪をそられ、あざけりの眼で見られたこと
- ・ 真冬に5、6人に与えられた一枚の毛布を奪い合い、人間性を失っていったこと
- ・ 一緒に働いていた女性が、ガス室送りになった際に声を掛けられなかったこと
- ・ ソ連の侵攻でアウシュビッツから他の場所への移動＝「死の行進」を強いられたこと
- ・ 空腹から道端に死んでいる馬の生肉をむさぼり食べたこと
- ・ 解放直後に元収容所長への復讐のチャンスがあったのを思いとどまったこと

彼女は、証言を聞く若者にやさしく語りかけたり、詩を口にするように風景を語ったり、絞り出すように声を低くしたりする場面もあった。しばらく沈黙して考え込むような空白の時も流れた。何かを決意したように強い口調になることもあった。最後は遠くを見つめるような視線を投げかけ、感無量の表情で締めくくったとのこと。

この中で印象に残ったのは、彼女の「前に進むのよ。自分の足で一步、また、一步」というメッセージです。

彼女はまた、このように語っています。

若い人たちは戦争の時代を過ごしてきたわけではなく、この新型コロナの感染拡大まではこれといった問題にもぶつからず、やりたいことを自由にできる日々を送ってきたことでしょう。今、親や大人たちは、あなたたちが困難に直面していると考えたとすぐに手を差し伸べてくれるでしょうが、それは違うと思いますよ。私はわずか13歳で誰も頼りにはできない状況に立たされました。自らの中にある力を見出さねばならないことを知りました。アウシュビッツ収容所からドイツに向かって他の囚人とともに何か月も歩かされた「死の行進」について語るとき、私は自らに言い聞かせ続けました。この「前に進むのよ。自分の足で一步、また、一步」と。

2学期の始業式に時間を大切にというお話をしました。我々に与えられた時間には限りがある。その時間を大切にという内容でした。自分の時間を無くす極端な行為は自殺です。残念ながら日本の若者の死因の第一位は自殺です。この状況に対して、彼女はこうも語っています。

アウシュビッツ収容所の周囲には鉄条網が張り巡らされ、そこには高圧電流が流れていた。それに触ればすぐに死ぬことができた。死を選ぶのは簡単なことでした。しかし、何とか死から逃れることを考えた。生きるということは恵みをもたらし、生きていることは素晴らしいこと。すべてを失った奴隷の日々が私の人生にはありました。それでもいつも生きることを選んできました。そして90歳になった今も生きることを選び続けているのだと。

この本の副題は「14歳 私は生きる道を選んだ。」

今、我々は新型コロナウイルス感染症をはじめ、様々な困難に直面し、生きています。50日後に控えた北京オリンピックも人権問題から外交的ボイコットの動きもあります。こうした差別、憎悪、分断などが課題となる現代へのアラートとして、彼女のメッセージを受け止めることが重要だと感じました。ぜひ考えてほしいと思います。

さて、一年はあっという間です。今年の初めに立てた目標を振り返って、皆さんはどれくらい達成できたでしょうか。それぞれこの一年をしっかりと振り返り、次の年に生かしてください。

今日は冬至です。ゆず湯につかってインフルエンザやコロナウイルスに負けないよう健康管理に努めてください。3年生の多くの皆さんには共通テストという大きなハードルがあると思います。夢の実現に向け、乗り越えてくれることを期待します。

「諦めたらそこで試合終了だよ。がんばれ、受験生！」

1、2年生の皆さんには、ムサキタでの生活を今一度振り返り、新たな目標を立ててみてください。

では、事故などのないよう年末年始を過ごし、新学期にまた、皆さんと挨拶できるようにしたいと思います。

